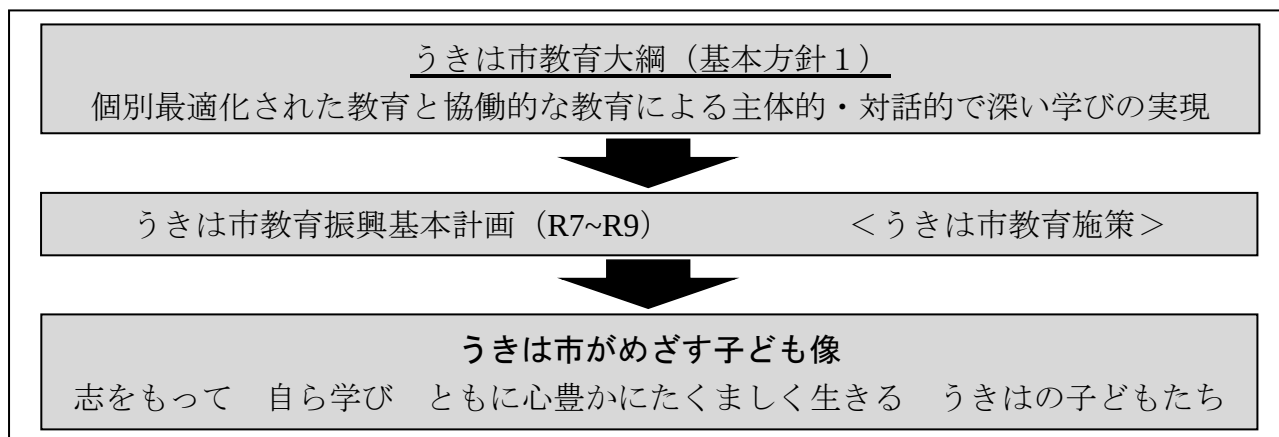


令和8年度 学校経営の方針について

1 本校の教育基盤

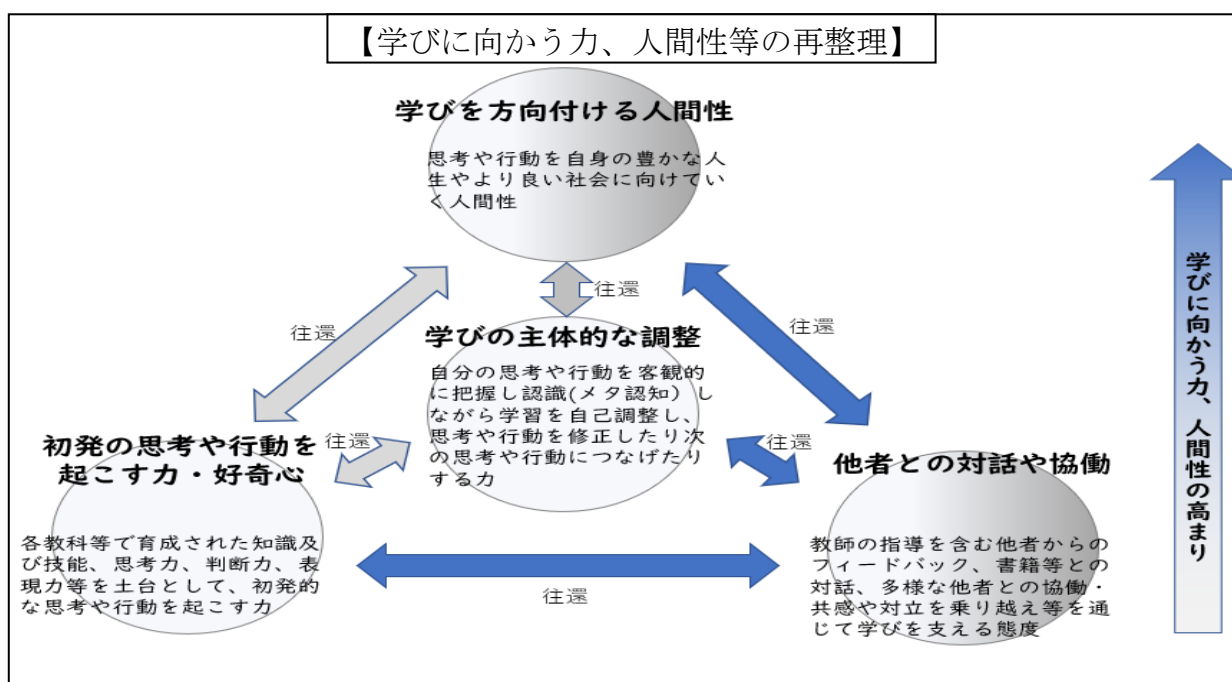
(1) うきは市教育大綱に基づいた教育

本校の教育は、日本国憲法、教育基本法、学習指導要領並びに福岡県教育大綱・教育施策等、うきは市教育大綱、うきは市教育振興基本計画の教育方針を基盤とし、児童及び保護者と地域の実態を勘案し、21世紀の主人公として生きていくための豊かな心と健やかな体、確かな学力を身に付けた子どもの育成を図る。



(2) 教育の動向から

令和7年9月、文部科学省の中央教育審議会 教育課程企画特別部会より、次期学習指導要領改訂に向けた「論点整理」が公表された。特に、現行の学習指導要領で示されている「学びに向かう力、人間性等」については、その育成が一層重視され、下図のように4つの要素（「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」「学びを方向付ける人間性」）に整理され構造化されている。今後、各教科の授業づくりにおいて、具体的な子どもの学びの姿として明らかにしていく必要がある。



2 学校教育目標とめざす子どもの姿

(1) 学校教育目標について

「夢に向かって心豊かにたくましく生きる子どもの育成」

「夢に向かって」とは

- ・ 目標をもつ
- ・ 見通しをもつ
- ・ やりたいことを実現するためにどうすればよいかを考える

「心豊かに生きる」とは

- ・ 友達と仲良くし、協力できる
- ・ お互いの違いやよさを認め合う
- ・ 自然を愛し、命を大切にする
- ・ 善悪を正しく判断し、きまりを守る
- ・ 元気のよいあいさつや丁寧な言葉遣いができる

「たくましい」とは

- ・ 他者の考えに流されず自分の考えをもつ
- ・ 一人でも取り組み続ける
- ・ 失敗してもくじけない（レジリエンス）
- ・ 最後までやり遂げる

(2) めざす子ども像

確かな学び……自分の考えをつくり表現できる子ども	＜考 え る 子＞
豊かな心……みんなと遊んだり話したりできる子ども	＜やさしい子＞
たくましい体……失敗に負けず、やり遂げる、継続できる子ども	＜たくましい子＞

3 学校経営の基本方針

(1) めざす学校像、子ども像、教師像、授業像を掲げ、その達成に努める。

公教育の立場に立ち、学習指導要領の趣旨を生かし、調和と統一のある教育課程を編成するとともに、その実施に当たっては、指導体制・指導方法を工夫し教育の成果を高めるようにする。

(2) 教育計画の充実を図るとともに、その内容を学校の組織運営に具体化し、全職員の連携の強化を図り、協働実践に努める。

(3) 教育に関する新しい動向や情報を収集し、意図的・計画的・継続的な校内研修を通して、日々の授業実践を高める。

(4) 変えなくてはならないことは年度途中でも変え、スピード感のある学校改革を進め、教育課題、経営課題の解決をめざす。

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育、計画的・実効性のある人権・同和教育の推進を図る。

(6) 教育実践に対する適切な評価を実施し、教育指導計画の改善に努める。また、学校評議員制により、学校経営への信頼を高めるよう努力する。

(7) 地域の伝統文化を継承し、地域の教育資源を活用した教育活動を推進するとともに広く授業公開の場をもち、地域と連携した取組ができるように努める。

(8) 学校の自己点検・自己評価、学校関係者評価を実施し、より質の高い改革を行う。

4 めざす学校像、教師像、授業像

(1) めざす学校像

子どもが行きたくなる、保護者が応援したくなる、職員が誇りたくなる学校

- 礼節と活気があり、学ぶことを楽しむ落ち着いた雰囲気のある学校
- 常に学び続け、自分の力を十分に発揮できる学校
- 先生を信頼し、安心して子どもを通わせられる学校
- 美しく清潔で秩序があり、地域に開かれた信頼される学校

(2) めざす教師像

- 生涯を通じて学び続け、子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する教師
- 子どもの成長やつまずき・悩みなどの理解に努め、きめ細かな支援ができる教師
- 同僚の人格を尊重し、協働を大切にして、共通理解・協働実践できる教師。また、保護者や地域と連携できる教師

(3) めざす授業像

- 学ぶことに対する思いがある授業 → 「教材の工夫や深い教材解釈」がある授業

- ・「できるようになりたい」「知りたい」「勝ちたい」といった学びへの思い
- ・自分で課題を設定し解決する。(個別最適な学び)

- 子ども主体の授業 → 子どもの「問い」を大切にした問題解決的な授業

- ・つかむ・・・ 新たな発想や考えをしないと問題を解決することができない場面や状況を設定し、目的や問いを見だし、意識させる。
- ↓
- ・つくる・・・ 既習の内容や方法を当てはめたり、組み合わせたりするという見通しを生かして自分なりの考えや表現をつくる。
- ↓
- ・ふかめる・・・ 自他の考えや表現を比較して関係付けたり、新たな問いや問題を見だし、解決したりして、考えや表現の高まりを実感する。
※出し合う→高め合う活動(あったか評価)を位置づける
- ↓
- ・出し合う：共通の目的をもって自分なりの考えや表現を仲間に発表したり提案したりするとともに、相手の意図や思いを想像しながら発表や提案を聞く(受け止める)。
- ・高め合う：仲間の考えや表現を高める方向性の示唆、励まし、認め合い等の内容をメッセージカード等の文章や話し合い等の口頭で交換する。
- ・まとめる・・・ 新たな内容をまとめるだけでなく、問題の解決を体験して学んだことを振り返ったり、発展的に新たな課題を設定したりする。

- 安心して考えを表現できる授業 → 学びの「7つのかまえ」がある授業

- ・準備・・・ 始まりの時刻を守る
- ・あいさつ・・・ 正しい言葉遣いも含めて
- ・姿勢・・・ 腰骨を立てる
- ・返事・・・ 話しやすい雰囲気をつくる
- ・発表・・・ みんなに伝わるように
- ・聞く・・・ 発言者を見て反応しながら
- ・整える・・・ 教室の床のごみゼロ、机の上や、ロッカーの中もきれいに

→ 友だち、教師等のはげまし、声かけ

- ・なるほど
- ・いいね
- ・大丈夫、できるよ
- ・いっしょにがんばろう etc

5 本校の課題

本校は、うきは市の中でも先駆的に情報活用能力の育成の研究に取り組み、成果を上げてきた。また、令和6・7年度は、学校給食研究指定校として食育に取り組んでおり、身近なことから問題を見出し自分の食生活に生かす取り組みを行ってきた。しかし、伸び悩む学力、未確立の基本的な生活習慣、友達関係によるトラブル、不登校といった教育課題、また、活力ある若年層の増加に対応した人材育成のシステム化等の経営課題が明らかになっている。

(1) 教育課題

- 多様な他者を認め、協働する力の育成
 - ・異学年集団活動
 - ・特別支援教育の推進
- 主体的に学ぶ意欲の高揚と基礎的・基本的な学力の定着
 - ・主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善
 - ・キャリア教育の推進
 - ・学習規律の徹底
 - ・家庭学習の工夫
- 基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚
 - ・千年しぐさ（あいさつ、言葉遣い、身なり、はきものそろえ）の日常化
 - ・情報モラル学習と家庭での約束づくり

(2) 経営課題

- 子ども一人一人のよさを伸ばすとともに学級集団を高める経営力の向上
 - 子どもとつくる学級目標や、学級活動の充実
- 子ども主体の授業づくりへの意識改革と学力向上をめざした授業づくり
 - 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の具体化
 - 子どもの学ぶ意欲を喚起する教材化や支援の工夫
- OJTによるキャリアに応じた人材育成
 - 自己評価表の振り返りと人材育成推進体制の構築
- タイムマネジメント力の育成と働き方改革の推進

6 本年度の重点目標について

「自分の夢に向かって、心豊かにたくましく生きる」ためには、自分に自信をもって、他との関わりを大事にしていくことが必要であると考え。そのためには、『自分のことを大切に思う心』と『自分と同じように他の人たちを大切に思う心』を大切にしたい。3つの側面から整理すると、＜たくましい子＞の側面からは、「知りたい」「できるようになりたい」といった学びへの意欲をもたせること。＜考える子＞の側面からは、「わかった」「できた」を実感させること。＜やさしい子＞の側面からは、互いに声を掛け合ったり、知恵を出し合ったりして、課題解決のために協力できること。以上のことを踏まえ、本年度の重点目標を設定する。

「学ぶことを楽しむ子どもの育成」

7 本年度経営の重点 ※ 次頁の『令和8年度 うきは市立千年小学校運営の要点』参照